

家に引きこもっている子ども達を自宅外への世界に繋がるサポートをして3年目になります。

様々な理由で学校に向かうことができない子ども達を、子ども達の気持ちに寄り添いながら、外の世界に繋ぐサポートをしました。

子どもの置かれた状況



自宅にほとんどいて、学期に1回程度学校に行く … 3件
自宅にいて、買い物などで外には出る …… 2件
自宅にいて、週に2, 3回学校に行く …… 1件
自宅にほとんどいて、週に1回程度学校に行く …… 1件
自分の部屋にいて、自宅の外に出ない …… 0件
合計 …… 7件

▶ 自宅では自分の好きなことをして過ごしている子が多く、ゲームをしている子が多いです。そこから学習に向かう気持ちはあっても、なかなか学習を継続的に行うのは難しいです。

学校に行くことがたまにあっても、自分の気持ちが思うように人に伝えることができず、先の見えないトンネルの中にいるような状況の子ども達が多いです。自分の気持ちを言葉に置き換えていくことが難しく、自宅にこもってあまり言葉を発しない状況にあると余計に気持ちを言葉で表現することができず、混沌としてしまっています。

アウトリーチを実施しての変化

アウトリーチをするタイミングは考えていますが、自宅に籠もってしまっている子ども達の心の変化の場面に立ち会っていると感じています。また、アウトリーチすることで、心の変化が起こるのかもしれませんが。子ども達の心に寄り添うことで、1ミリずつですが前に向かおうとしている背中を押すことができたと思います。

アウトリーチ

2022

実施内容

訪問(延べ回数)	35件
チャットで会話(延べ回数)	5件
送迎の補助	1件
合計	41件

▶ アウトリーチ訪問をすることで、家族とは違う人が家に入り、新しい風が入ってきます。アウトリーチスタッフからも声かけや質問などをし一緒に話をすることで、子ども達の気持ちも整理されていくのだと思います。

最初はなかなか子ども達から言葉が返ってきませんが、回数を重ねていくことで、子ども達の気持ちの波もわかるようになります。

▶ 公式LINEを利用できるようになったことで、子どもとアウトリーチスタッフのチャットを始めましたが、ホッとステーション会場のパソコンで、時間を決めて対応していたので、スムーズに関係を継続することができませんでした。緊急の相談以外は、やはり子どもとは対面で話をするほうが良いと感じました。

また、家庭に訪問することで、家族と会話して子どもの様子を伺い、家庭の生活の様子がわかることが、子どもを理解する手がかりになると思いました。

▶ 学校に行くことができない子どもが学校以外の場所を求めても、実際に活動範囲が狭かったり、荒川区の地理に不案内だったりとの理由でホッとステーションに来られなかった子ども達の送迎をしました。

実際には保護者の方が心配するほど子ども達ができなくはなく、手助けをする程度でホッとステーションに来られるようになりました。きっかけさえあれば、外と繋がることができる子ども達がいるのを感じました。

アウトリーチスタッフ研修

2022年6月4日(土)10時～16時 東京都立大学・182教室／ハイブリッドにより実施

- 講義 1 一般社団法人 子ども村ホッとステーションの活動について(代表理事 大村みさ子)
- 講義 2 親の立場で語る:不登校の小学生の母親から(小学校6年生保護者)
- 講義 3 アウトリーチ実施中の学生さんから(東京都立大学看護学科:長賀部里紗さん)
- 講義 4 不登校の動向と政策 子どもの権利条約
(東京都立大学大学院人間健康科学研究科 木村千里准教授(リプロダクティブヘルス看護学))
- 講義 5 不登校・ひきこもりの原因と支援・子どもの発達特性
(東京都立大学大学院人間健康科学研究科 伊藤祐子教授(作業療法学))
- 講義 6 不登校の子どもと家族の支援:心理社会的側面とその特徴 寄り添いと傾聴、家族支援
(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 武用 百子教授)



中高生ホッとステーション

エレベーターから出て中へ足を踏み入れると、各自が椅子に座りアクリル板に仕切られた中で、一定の距離を保ちながら食事を取っていました。食事を終えた子ども達はできるだけ早く食器を洗い終え、各自がしたいことに集中しようとしています。一方では漫画を読むことに夢中になっていたり、また一方ではパパ抜きをして、さらに他方では終わってない宿題に取り組んだり。かと思えばトランプが将棋やジェンガに切り替わり、ついには楽器の音が鳴り響きます。さまざまな出来事が一つの部屋で起こり、あらゆるものごとを皆で共有しているような感覚があります。

その中でスタッフと子ども達、また、スタッフ同士、子ども同士のコミュニケーションが絶えず行われています。好きなアニメの推し、今日の面倒臭かったこと、その問題を解くポイント。たとえ話さなくても近くにスタッフがいる。そうして子ども達が安心して成長できる場所をみんなで創りあげることがスタッフに求められるものだと思います。一人ひとりが個性を持ち、どうコミュニケーションをとるか毎回試行錯誤の連続です。一つ一つが学びになります。



ホッとステーションのイベント

2022クリスマス会は、映画ミッションインポッシブルのようでした。前回の演奏が何となく上手いような気がした自分は、SHISHAMOの「明日も」と氣志團の「ワンナイトカーニバル」が演奏したくなりました。コロナの猛威が昨年以上でやる事も2倍以上という無茶振りでしたが、バンド名「ok牧場」のメンバー、楽器歴1年で中学2年生の3人と、長年大学在学中のスタッフに夢を託しました。案の定うまくいくわけもなく断念かも。でも、ホッとステーションはすごいんです。

中学2年生3人の脅威的集中力。大村さんが練習機会を増やしてくれ、卒論を終えたばかりの大学生スタッフと中学2年生がぶっつけ本番ボーカル参加で、2曲をショートで演奏できました。ダチョウ倶楽部のギャグも入れ、生演奏「ひげダンス」もドリフ好き小学6年生が直前の振りでも立派にやり遂げてくれました。

今年も、子どもやスタッフとたくさん関わって、いろいろなことを教わって、たくさん楽しい夢を見ます。

ボランティアの成長にも

齊藤さん(学生ボランティア)

学生ボランティアをしていて、小学生から高校生までの幅広い子ども達と一緒に遊べるのがホッとステーションの魅力だと感じました。学校生活の中で困難を抱えていたり、学校自体になかなか通うことが難しい子ども達もいますが、一緒になって遊ぶことで自分の立場や役割を獲得することができ、それぞれが生き生きとした姿を見せてくれます。

お兄さんらしい高校生の姿や、普段はなかなか発言できない子の積極的な姿はとてもかっこよく、成長を実感します。

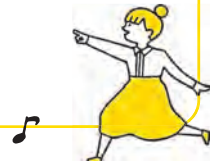
活動の中で見せる子ども達の成長を、親世代とは違う程よい距離感を大切に今後関わっていきたいです。



2022年度に実施したイベント

- 3月 おぐのはらアートフェスタ参加(尾久の原公園)
- 4月 映画会(ミュウツターの逆襲・ラストサムライ)
- 5月 リアル双六(スカイツリーを目指せ)
映画会(ドクタードリトル・剣岳 点の記)
- 7月 夏休み学習会
- 8月 夏休み学習会
水遊び・花火(荒川土手)
映画会(グレムリン、秒速五メートル)

- 10月 東京都立大学文化祭 参加
ハロウィーンカボチャ切り抜き体験
- 11月 枯れ葉で遊ぶ(尾久の原公園)
ひとものくらし荒川再発見参加(南千住)



参加者等アンケート結果

実施期間：2023年4月11日（火）～同年4月20日（木）

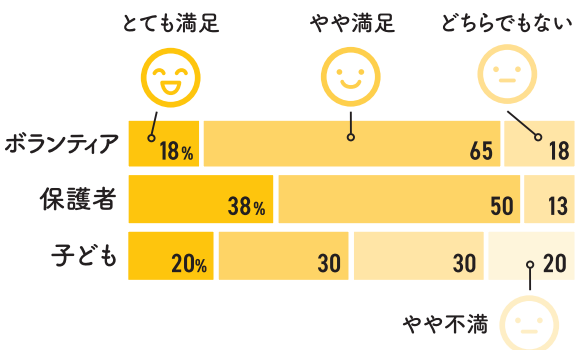
対象者：2022年度に中高生ホットに参加した、
①子ども
②その保護者
③ボランティア

活動の成果と今後の課題について把握するため、2022年度の中高生ホットステーションに参加した方々を対象にアンケートを行い、活動の成果と課題、および参加者等のニーズについて調査しました。

調査方法：googleフォームで回答

回答数：(1) 子ども／9名
(2) 保護者／8名
(3) ボランティア／17名

Q. ホットステーションについての全体的な満足度を選んでください。



Q. ホットステーションに期待しているものについて、あてはまるものすべてを選んでください。

期待していること	子ども	保護者
楽しく過ごす	8	7
大人と相談する	4	3
勉強する	2	3
友だちをつくる	5	3
ごはんを食べる（子どものみ）	4	
新しいことをやってみる（子どものみ）	5	
社会性をつける（保護者のみ）		3
特にない、その他	0	0

Q. ホットステーションに参加するようになって前向きに変化したことについて、あてはまるものを選んでください。

前向きに変化したこと	子ども	保護者
悩みが解決した、または改善に向かった	2	3
学習の仕方がわかった	2	1
友だちができた	5	1
人と話せるようになった	5	3
外に出られるようになった（子のみ）	3	
毎日の生活が少し楽しくなった（子） 明るくなった（親）	1	2
変わったことは特にない	1	2

Q. ホットに参加したことでお子様がどう変わったか（あるいは変わらなかったか）教えてください。

※一部抜粋、保護者対象

- 人見知りがいづ良くなりました。
 - 親子で行き詰っていたが、親子が離れる時間ができ、子どもも学校以外の新しい環境で過ごし、一歩前に進むことができた。
 - 勉強するようになった。
 - 少なくとも家の外に出るようになった。
 - まだあまり変化はありません。
- 引き続き様子を見ていきたいと思います。

活動への期待と成果

ホットに来る時間が、多様な人と一緒に過ごす時間となり、
ホットが第三の「居場所」として子どもにとっての「世界」を広げる役割を担っている。

「食を通じた支援のつなぎ方のみえる化事業」



実施報告

全国に広がった子ども食堂、子どもの居場所活動は、長引くコロナ感染により「つどう活動」から、フードパントリーやお弁当の配布などの活動に取り組むようになりました。そのなかで子どもやその家族の課題に気づき、個別支援を取り組むようになったこと、抱える課題は複雑化・深刻化しており、課題解決のためには、1つの団体で抱え込むのではなく、様々な団体・機関との連携が不可欠です。

①東京都荒川区 一般社団法人子ども村ホットステーション、②大阪府 一般社団法人こどもの居場所サポート大阪、③福岡県 NPO法人いるか、④沖縄県 那覇市社会福祉協議会の4地区と全国食支援活動協力会により、食支援(食事提供・お弁当配布など)と地域資源の活用や、連携による子どもへの見守り支援のみえる化を目的に実施しました。



※ 詳細は、「食を通じた支援のつなぎ方のみえる化事業」報告書をご参照ください。

食を通じた支援のつなぎ方のみえる化事業



<https://mow.jp/archive/index.html>

あらかわ子ども応援ネットワーク 所属団体の活動状況把握の ためのアンケート調査

「食を通じた個別支援のつながりづくり」を行っていくための基礎情報として、支援を行っている団体の活動において保有している資源を見える化するとともに、各団体の支援ニーズについて把握するために調査を実施。

コロナ禍における活動状況の把握と、その結果の調査後、活動状況を紹介する案内パンフレットを作成し、フードパントリーの実施の際に配布した。



個別支援を実施している団体の 地区別情報交換会の実施

区内の「子どもの居場所」「子ども食堂」には、支援を必要とする子ども達が、複数箇所の活動に参加している。子ども達の支援をするのにあたり、情報交換を実施し、事例検討を行った。その際には、個人情報を守るため、この場以外に情報を持ちださないことを条件とし、南千住地区・町屋地区において5回開催した。

また、「あらかわ子ども応援ネットワーク」の参加団体である東京都立大学の健康福祉学部の木村千里先生、伊藤祐子先生にアドバイザーとして参加・助言をいただいた。

事例

複数の「子どもの居場所」による連携リレーでお弁当を届ける。「子どもの居場所 バイタルプロジェクト」「子ども食堂 サザンクロス」「子どもの居場所 イン町屋」「子ども村ホットステーション」により、母親の病気、入院により毎日の食事の支援が必要な子どもを支えることができた。



まだ手をつなげていない子ども達とつながるために ひとり親家庭パントリー活動と、相談カフェの実施

3

ひとり親家庭や経済的に厳しい状況にある子どものいる家庭等を対象にし、区子育て支援課からの助成金やフードドライブ、地域住民や企業、社会福祉団体等から寄贈された食材や生活用品を配布するパントリー活動を実施した。対象者への周知は、区子育て支援課から、ひとり親家庭を対象にしたメルマガ送付で実施。また、参加した親子とつながる機会をつくり、困った時にSOSを発信し、様々な活動団体や関係機関が受けとめ地域から孤立した家族が生まれないよう地域で支えるための相談カフェも実施した。

事例

- 実施回数 12回
- 実施日 毎月第3日曜日
- 会場 フレスコ町屋 ガレージ 町屋2-21-3
- 実施内容

ひとり親家庭 延べ1152世帯に食材と生活用品を配布。都立大学荒川キャンパスの学生 延べ183 名に配布した。

当日の運営には、「あらかわ子ども応援ネットワーク」と共に、「荒川ボランティアネットワーク」、都立大学学生、東洋大学学生をはじめ、「子ども村ホッとステーション」の中高生も参加するなど、延べ人数343名のボランティアが参加した。さらに、「子どもの居場所」「子ども食堂」の利用世帯で支援が必要な家庭延べ583世帯に食材の配布を行った。



食を通じた支援のつなぎ方の見える化 事業研修会の実施

テーマ 子どもをまんやかに、家族まるごと支援を！ みんなで手をつなぐために

困難を抱えている子どもの家庭は、複合的な課題を抱えており、時には待ったなしの“今”の支援が求められるなど、ボランティアだからこそできる寄り添い支援と、行政等の支援期間との連携が不可欠である。行政の子どもにかかわる支援機関「荒川区子ども家庭総合センター」、「荒川区教育委員会教育センター」、「子育て支援課ひとり親家庭女性福祉係」より事業説明と課題、「子どもの居場所」「子ども食堂」との連携に期待すること、支援にあたり留意すべき点について意見交換をおこなった。最後に東京都立大学健康福祉学部 看護学科 木村千里准教授より、子どもをまんやかに協働・連携することの意義と必要性や、今後の取り組みについて報告を受けた。

- (1)日 時 令和5年2月2日(木) 14時～16時
- (2)会 場 アクロスあらかわ 2階会議室 荒川区荒川2-57-8
- (3)参加者数 32名

子どもの居場所・子ども食堂6団体・行政(子育て支援課・教育センター)・社協



荒川区に「子どもの権利条例」が制定

「荒川区子どもの権利条例」が議員提出議案として、令和4年度荒川区議会定例会・2月会議において全会一致が議決された。

12月よりパブリック・コメント(以下、パブコメ)が実施されようとしていることを知った。実効性のある条例制定のために「あらかわ子ども応援ネットワーク」への参加団体と、子どもに関わる団体等に呼びかけて内容検討会を実施。子どもの支援に関する意見交換および方針を共有し、パブコメを複数団体合同で提出した。

子どもの権利擁護の一環としての子どもの支援の活動の方針について議論することで、多くの団体間で連携を強めるとともに共通認識を得ることができた。

この条例が、すべての子どもたちの権利が守られ、実行性のあるものになるよう、子どもたちと共に学び合い声をあげていきたい。

5



データでみつめる子ども村

〔 令和4年度／月別人数 〕

子ども村ホッとステーションの動向を、「子ども」「大人」と、「スタッフ」「ボランティア」の人数で紹介します。

月	開館日数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	保護者	合計
4月	13	34	21	8	2	0	0	65	130
5月	12	46	14	8	1	0	0	68	137
6月	12	75	21	6	8	0	0	106	216
7月	14	99	24	7	8	0	0	140	278
8月	13	80	26	4	11	0	0	120	241
9月	12	85	23	4	5	0	0	113	230
10月	13	90	41	4	8	0	0	137	279
11月	13	76	64	7	6	0	0	146	299
12月	12	73	83	6	9	1	1	163	336
1月	12	74	88	6	5	0	0	169	342
2月	11	73	85	5	5	0	0	164	332
3月	12	69	118	8	9	0	0	201	404
合計	149	874	608	73	77	1	1	1592	3224



ふあみ～る

◀0歳～3歳の「子ども」の人数が多く、とくに0歳は「874」と最も多くなっています。



ユニバーサルステーション

▶「大人」の合計人数が「子ども」の2倍以上と、多くの参加がみられました。多世代共生のための居場所として活用されていることがわかります。

月	子ども	大人	ボランティア	スタッフ	人数合計	開館日数
4月	60	147	47	57	311	12
5月	46	97	55	52	250	11
6月	50	160	57	71	338	14
7月	58	151	51	55	315	11
8月	93	180	53	62	388	12
9月	49	142	56	61	308	13
10月	58	129	49	61	297	12
11月	58	118	47	53	276	11
12月	69	144	36	55	304	11
1月	69	127	36	50	282	10
2月	60	146	46	59	311	11
3月	115	188	49	73	425	14
合計	785	1,729	582	709	3,805	142

放課後クラブ

▶「放課後クラブ」は、2022年度から新しく、放課後の時間を”自分らしく”、そして”自由”にすごせる居場所を用意したいと始めた活動です。事業開始当初は「子ども」の人数が少なかったのですが、夏休みに入る8月頃から増えてきました。

月	子ども	ボランティア	スタッフ	人数合計	開館日数
4月	0	1	6	7	2
5月	8	3	14	25	7
6月	25	14	24	60	9
7月	26	17	22	66	9
8月	61	45	39	149	13
9月	18	18	21	51	7
10月	56	18	24	98	8
11月	60	28	24	113	8
12月	52	25	21	98	7
1月	54	17	20	91	6
2月	53	22	25	100	8
3月	56	36	29	121	10
合計	469	244	269	982	94



月	利用子ども 延べ人数	内訳			ボランティア	実施回数
		小学生	中学生	高校生		
4月	40	13	8	19	73	4
5月	35	9	16	10	59	3
6月	54	14	21	19	97	5
7月	52	17	17	18	73	4
8月	61	19	23	19	74	4
9月	77	24	31	22	93	5
10月	66	24	30	12	68	4
11月	46	17	18	11	53	3
12月	76	27	32	17	70	4
1月	32	11	11	10	39	3
2月	46	17	22	7	42	3
3月	80	19	41	20	72	5
合計	665	211	270	184	813	47

中高生 ホッとステーション

◀「大人」の数が最初は「子ども」より多かったのですが、12月から「子ども」の人数も増え、「大人」よりも多くなってきました。





たくさんの 応援に感謝して

▶▶ 佐久間耳鼻科クリニックドクターと グループホーム「かり〜の」様

現在の広々とした場所での活動はグループホーム「かり〜の」の理事長である佐久間院長先生のご厚意で会場を貸していただけているお陰で、継続することができています。さらに、となりのガレージをお借りすることができ、あらかじめ子ども応援ネットワークのひとり親家庭のためのパントリー活動に取り組むことができ、荒川区でより広がった支援ができるようになりました。佐久間先生が、パントリーの際にお顔をだし声を掛けていただけることは、私達活動をしている者にとって大きな励みとなり、心から感謝しています。

コロナ感染が落ち着いてからは、グループホーム「かり〜の」の高齢者の方々も音楽活動や子育て交流サロンに参加していただくことができるようになり、心温まる交流ができています。このご縁を大切にこれからも、子ども村の活動を推進していきたいと思っています。

▶▶ 企業組合あうん& 一般社団法人あじいの皆様

子ども村ホッとステーションの夜間高校に通学する子ども達に、働く経験の場を作り未来への一歩へのサポートをいただいています。

また、毎月2回あうんにパルシステムから寄贈される新鮮な野菜を提供していただいています。資源カフェに取り組む「あじいの」のみなさんには、パントリー終了後にでるたくさんのダンボールを取りに来てもらい、その売り上げは、あらかじめ子ども応援ネットワークに寄付をしていただいています。

子ども村ホッとステーションの活動は、個人、団体、企業のみなさん、行政、社協からのご支援により支えられています。

▶▶ (株) トーダン様

地元荒川区東尾久にあるカレンダー制作会社トーダン様からは、継続して令和4年度も活動のための支援金をご寄付いただきました。大切にに使わせていただきます。

▶▶ 食材のご支援～子ども100円、 大人200円の低価格で昼食を提供

毎週、私達のリクエストを聞き、定期的に自転車に乗り切れないほどの食材を提供してくださる方や、子ども達の大好きなハンバーグを定期的に届けてくれる方、お米・野菜・乾麺・卵を定期的に寄付してくださる方、お菓子を届けてくださる方など、おひとりおひとりのお名前をご紹介できないのですが、たくさんの応援をいただいております、私達の活動を支えていただいております。

また、いただいた食材をおいしく調理し、子ども達のおなかを満たしてくれる調理ボランティアさん達。食材と一緒に届く気持ちを大事に、心をこめて調理し、おいしいごはんを提供しています。

▶▶ 様々なボランティアの皆様

ユニバーサルステーションは、参加者みんながボランティアであり、お互い様の関係をつくることを大切に取り組んでいます。多世代の方との交流を通し、子ども達の成長を支えてくれます。

▶▶ 賛助会員の皆様

私達の活動のスタートからずっと見守り支えてくださる賛助会員の皆様に感謝申し上げます。子ども達のソーシャルファミリーのひとりとしてこれからもご支援をお願いいたします。

子ども村ホッとステーションの活動を応援してください

● 支援方法

以下①～③のどれかをお選びください。

① 賛助会員（個人）／年間3,000円 ※

② 賛助会員（団体）／年間20,000円 ※

③ ご寄付 〃／ご希望の金額

※①、②は継続的なご支援をお願いいたします。

● 申込先・問合せ先

一般社団法人 子ども村ホッとステーション 事務局

【住所】 荒川区町屋2-21-2 フレスコ町屋201号室

【電話】 03-6240-8571

【メール】 arakawa.kodomomura@gmail.com

● 申込み方法

【銀行へのお振り込み】

銀行名 〃 城北信用金庫 町屋支店

預金の種類 〃 普通

口座番号 〃 0048221

口座名 〃 (シャ)コドモムラホッとステーション

【ゆうちょ銀行／郵便局】

店名 〃 一三八(イチサンハチ)

店番号 〃 138

預金の種類 〃 普通預金

口座番号 〃 0659093

口座名 〃 (シャ)コドモムラホッとステーション



一般社団法人

子ども村ホッとステーション

〒116-0001 東京都荒川区町屋2丁目21-2 フレスコ町屋201



2023.03/500

この報告書は、荒川区地域子育て交流サロン事業補助金、日本財団補助金、WAMネット助成金により作成いたしました。